「日学連アゴラ」へ

東海学生卓球連盟　大元　司

　何をどう書けばよいのか悩みましたが、結局自分の事（時代）をと決心しました。

　母校は愛知工業大学、昭和５０年代前半です。東海地区では中京大学と春秋リーグ優勝を分け合い、突如黒・黒でアンチラバーが出たとき、それまで分の良かったカット選手にもあっさり負けてしまう状態が２，３か月続いたと思います。私は、リーグ戦のベンチに１年間入れない程の力でしたので、初めて中京大戦に出場した時たいへん緊張したことを覚えています。そんな自分でも全日学でダブルス優勝をすることができました。今とはレベルが違いますが、学生の皆さん、その気になれば学生、いや全日本のチャンピオンも可能ですよ。と言いたいです。

全国的には、関東では日大、関西では近大がずば抜けて強く、両校で優勝を争っていたと思います。大学進学の選択の時、層の厚いところで揉まれて勝ち上がった時は本当の実力がついている、か、何度も全国大会を経験しながら強くなっていくか、という話をされました。関東、関西ではなくなぜ東海を選んだのかの理由を（勧誘されなかったことを忘れて）後者だと自分に言い聞かせていました？　学生の皆さん、今いる場所は自分にとって必然です。今の環境で全力を尽くし、可能性に挑戦し続けることが大事なことではないでしょうか。

就職活動で、当時実業団として卓球部のある会社へ話が進んでいましたが、学園職員の仕事プラス高校女子卓球部コーチとして残ることになりました。現在、愛工大・名電中高と素晴らしい成績ですが、最弱な時代の指導者としての経験をしながら、その後、４０年携わってきました。一つのところだけの自分に、社会人としての心構えは語れませんが、　学生の皆さん、人生は調子のよい時もあまりよくない時もあるようです。「もっと上を見る、もっと下を見る」ことも必要なのではないでしょうか。・・・

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ありがとうございました。